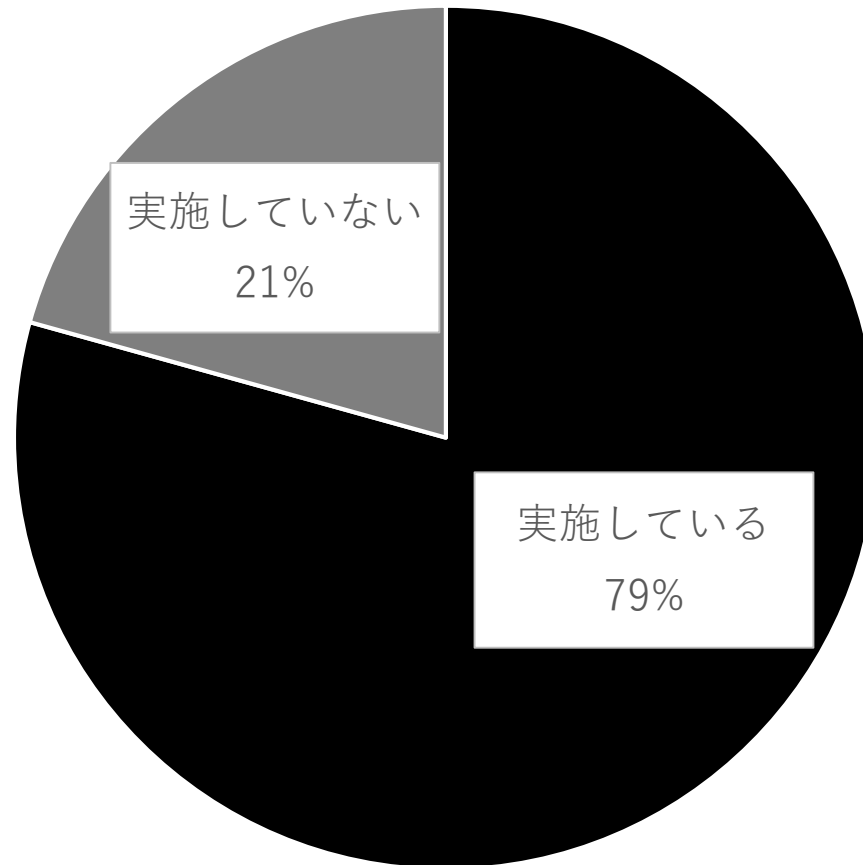


Ⅲ. 認知症の医療・産業連携

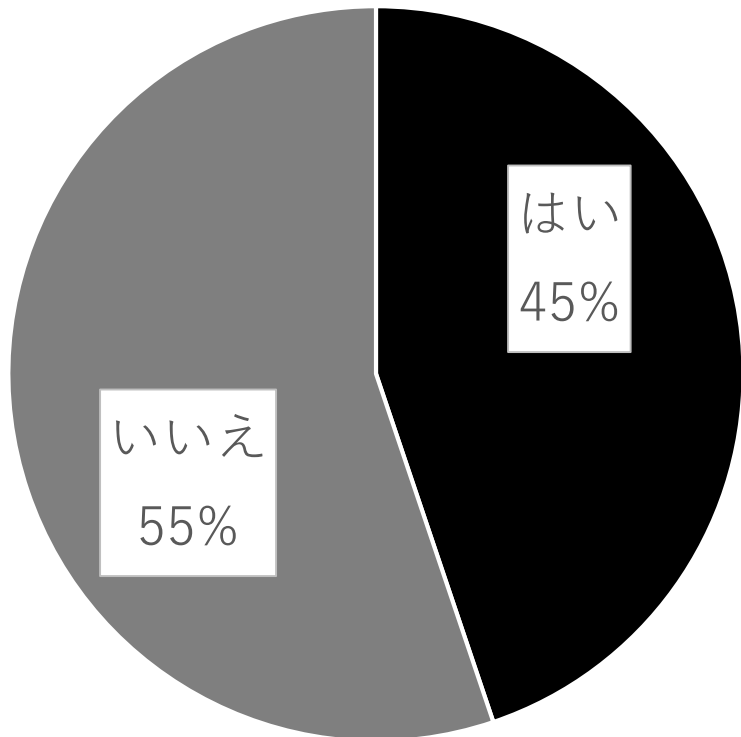
認知症の人の徘徊防止や早期発見のための対策について

◆認知症等が原因で行方不明となった高齢者発見のための体制づくり
(行方不明高齢者見守りネットワーク等)の実施
(N=29)



◆GPSやICTを活用した取り組み（N=29）

行方不明高齢者等の早期発見のため、探索機器（GPS等）の貸与やICTの活用等の取組の有無



ICTを活用した認知症の方を支援する取組（買い物支援、通院支援など）の有無



◆GPS機器と警備会社の取り組み

GPSを取り扱う企業等と警備会社で、認知症徘徊に関する取組を行っているか電話調査を実施

三重県警備業協会 会員企業 92社 のうち、

3社 で認知症の徘徊に対する取組を実施していた。



◆QRコードの活用例

導入自治体：三重県内では**3市1町**（2019年7月現在）

メリット：スマートフォンというデバイスを活用して運用できる点
インターネットやメールを使用できる点
個人情報を使用せず、衣服や持ち物に貼付して使用できる点
災害時での運用にも有益。

課題：「互助」の取り組みとして運用されている人的な見守りネットワークの補完的な役割を担っているため、地域における人的ネットワークの濃淡によって効果の違いが現れる点は大きな課題です。また、QRコード自体の認知度をさらに向上することを要する部分もあります。

介護施設への介護ロボットの導入状況に関する調査結果

■調査目的

認知症に対するロボット技術を用いたケアなどが今後普及することが期待されており、介護ロボットの導入状況、導入するための課題などを把握することを目的とする。

■調査方法及び期間

方法：調査票をメール又は郵送配布。メール又はFAXにて返信

期間：2019年6月25日～7月31日

■調査対象者

三重県内の介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設、
介護老人保健施設、認知症グループホーム

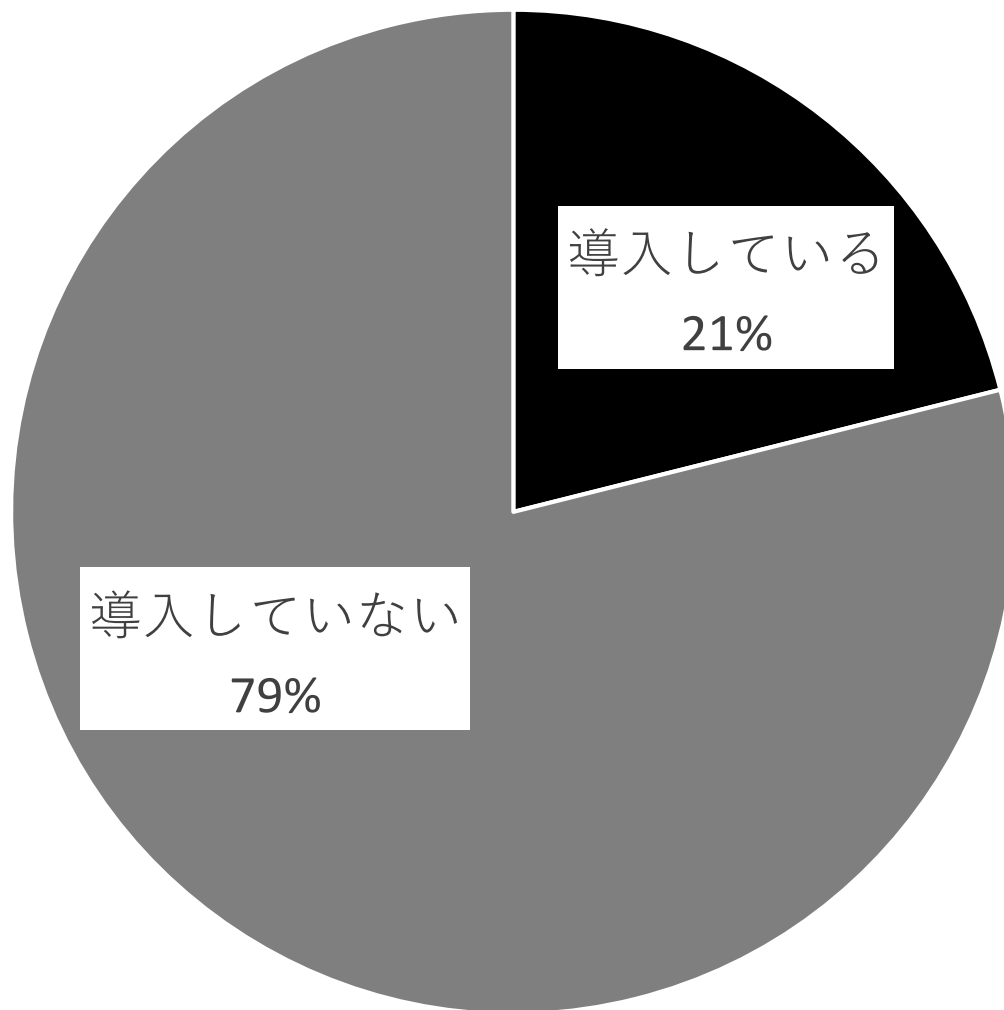
■アンケート結果

アンケート配布数 479

アンケート返信数 147

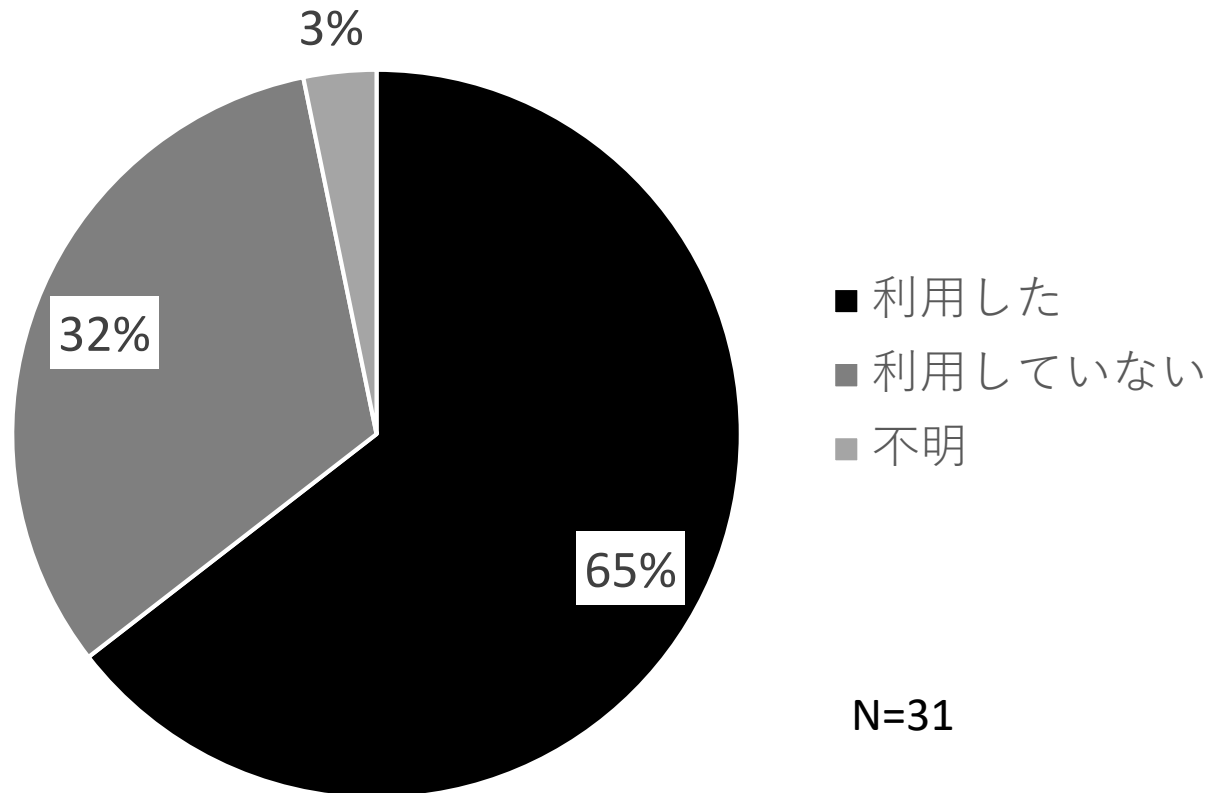
回収率：30.7%

◆施設において介護ロボットの導入の有無
(N=147)



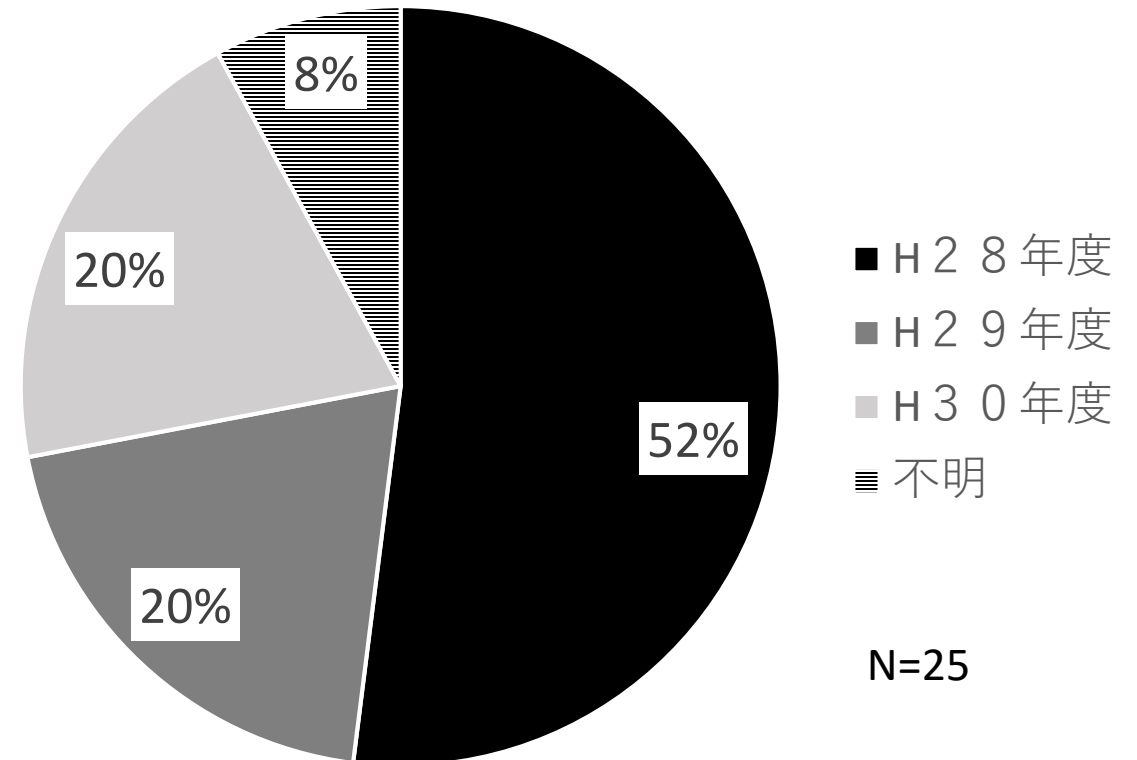
◆介護ロボット導入の補助金・助成金利用について

補助金・助成金の利用状況



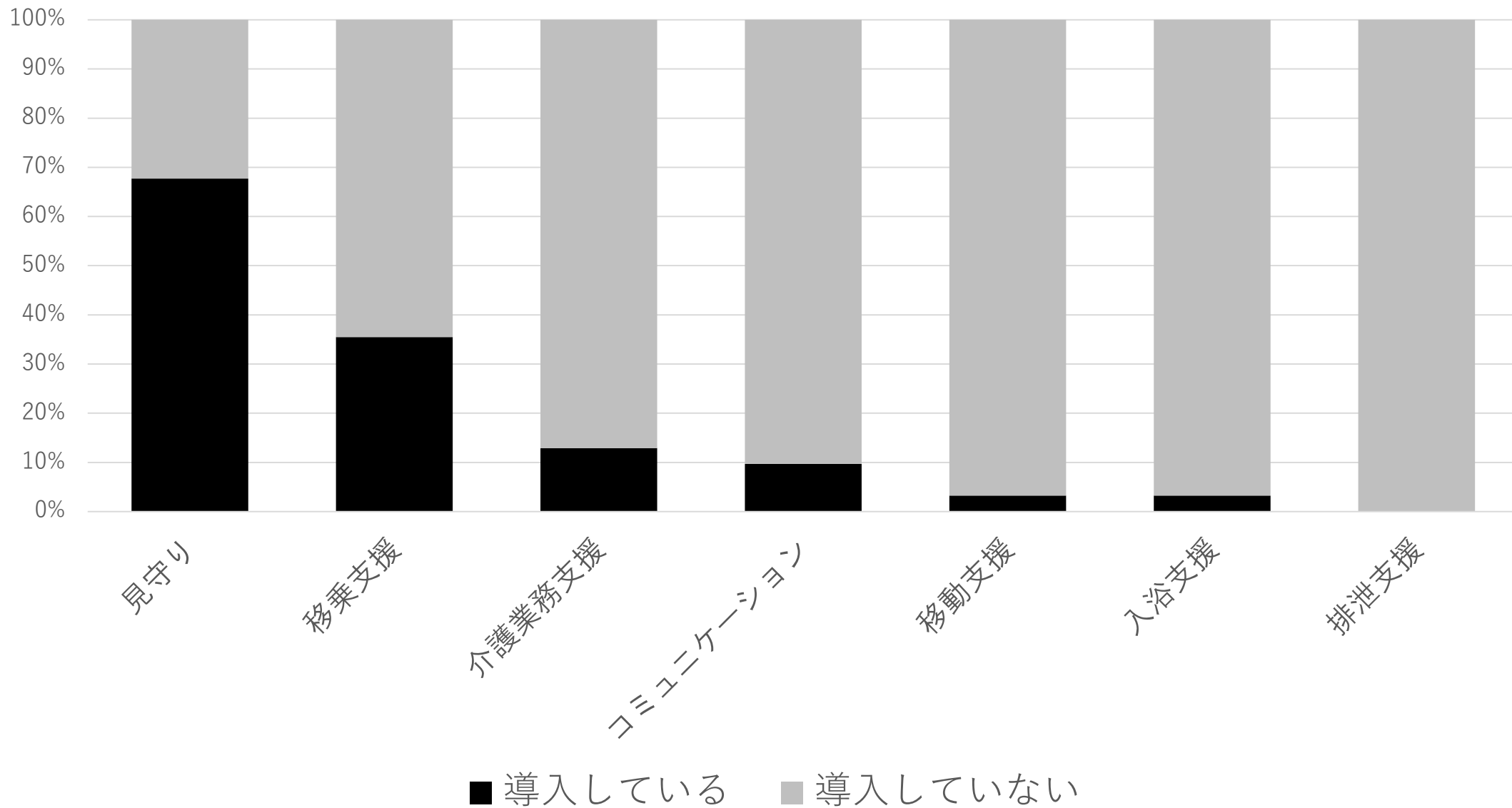
補助金・助成金の利用年度

※複数回答あり



◆導入している介護ロボットの分野 (N=31)

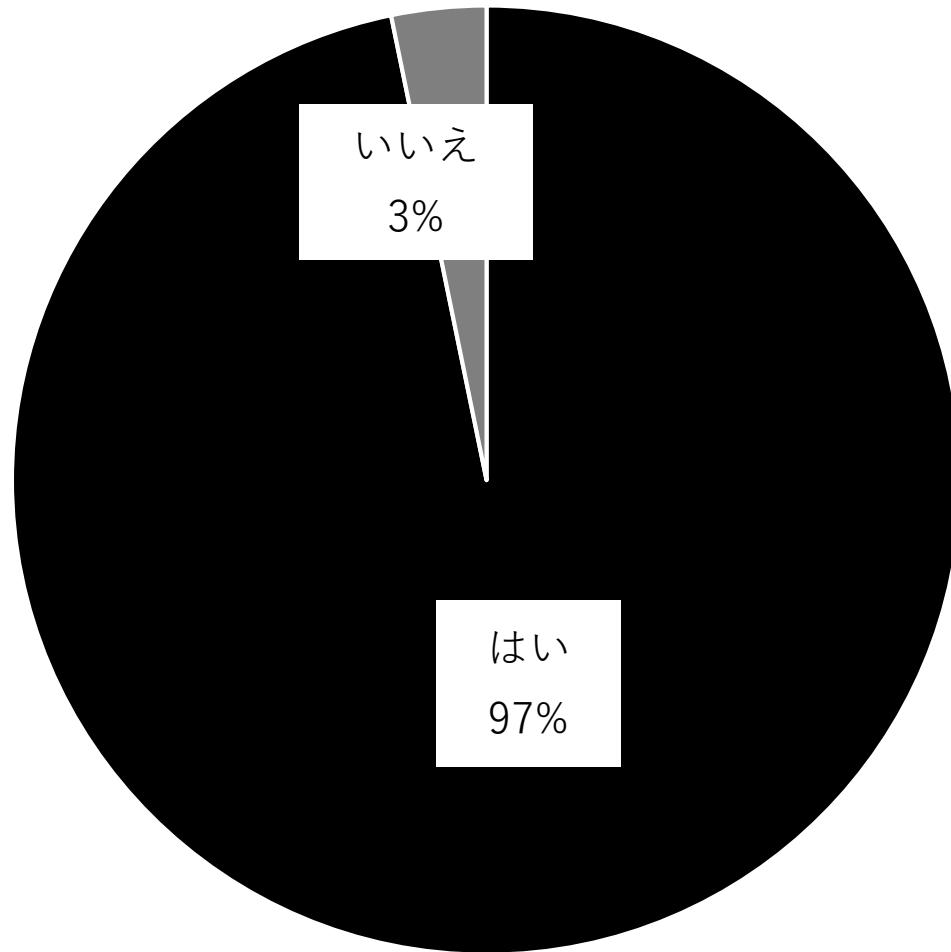
※複数回答あり



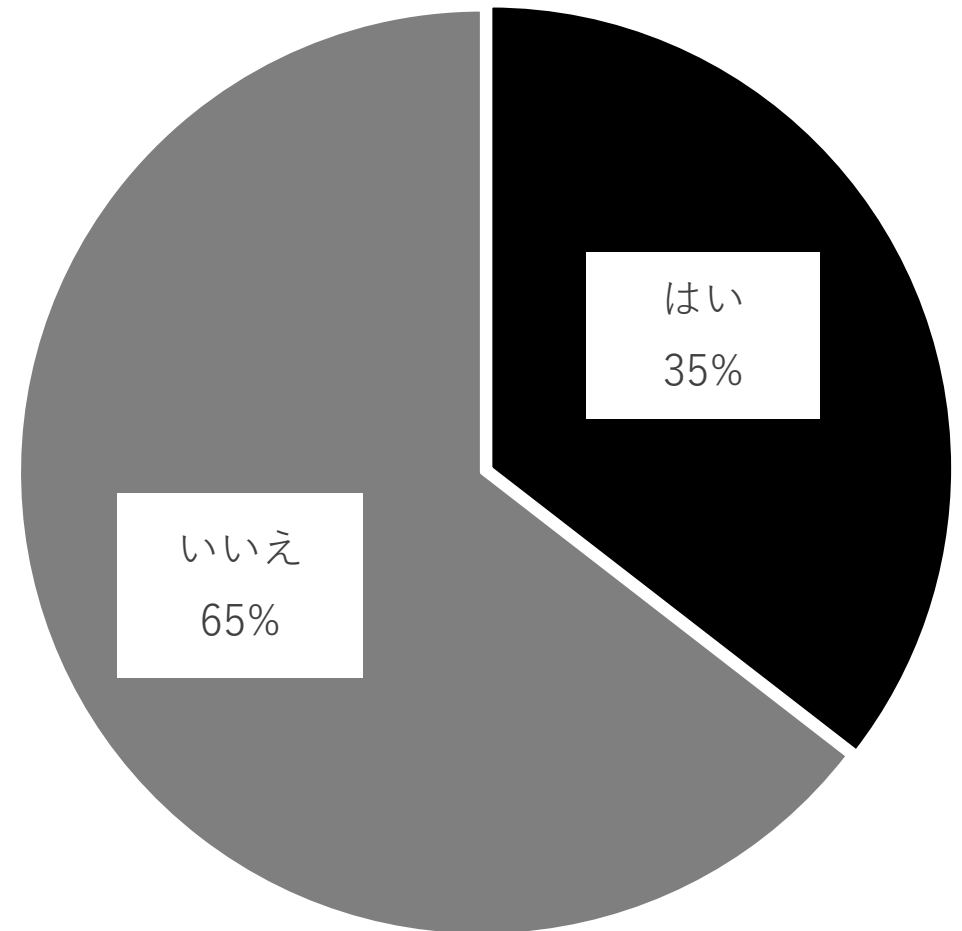
◆介護ロボット導入の効果 (N=31)

※複数回答あり

介護従事者の負担軽減

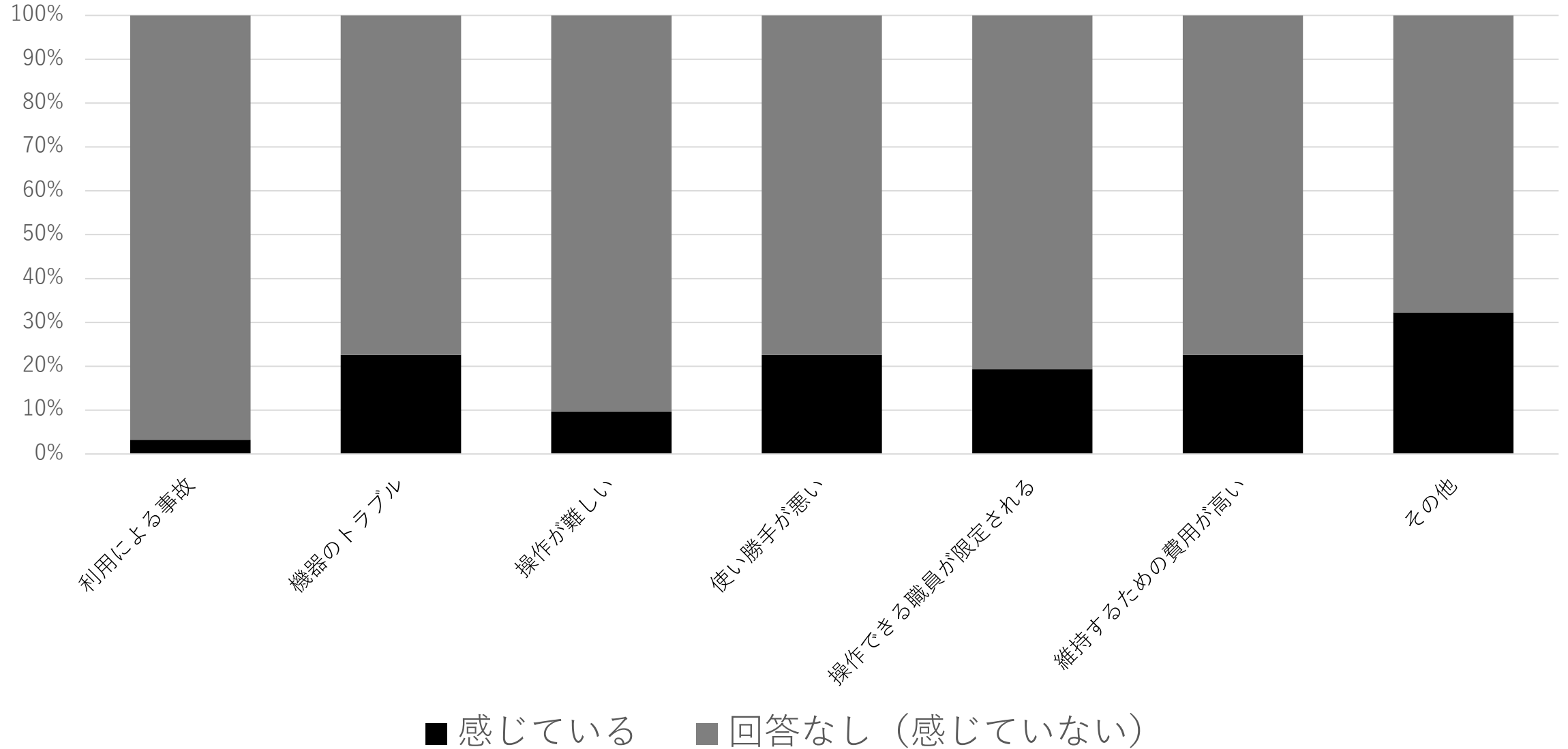


利用者の負担軽減

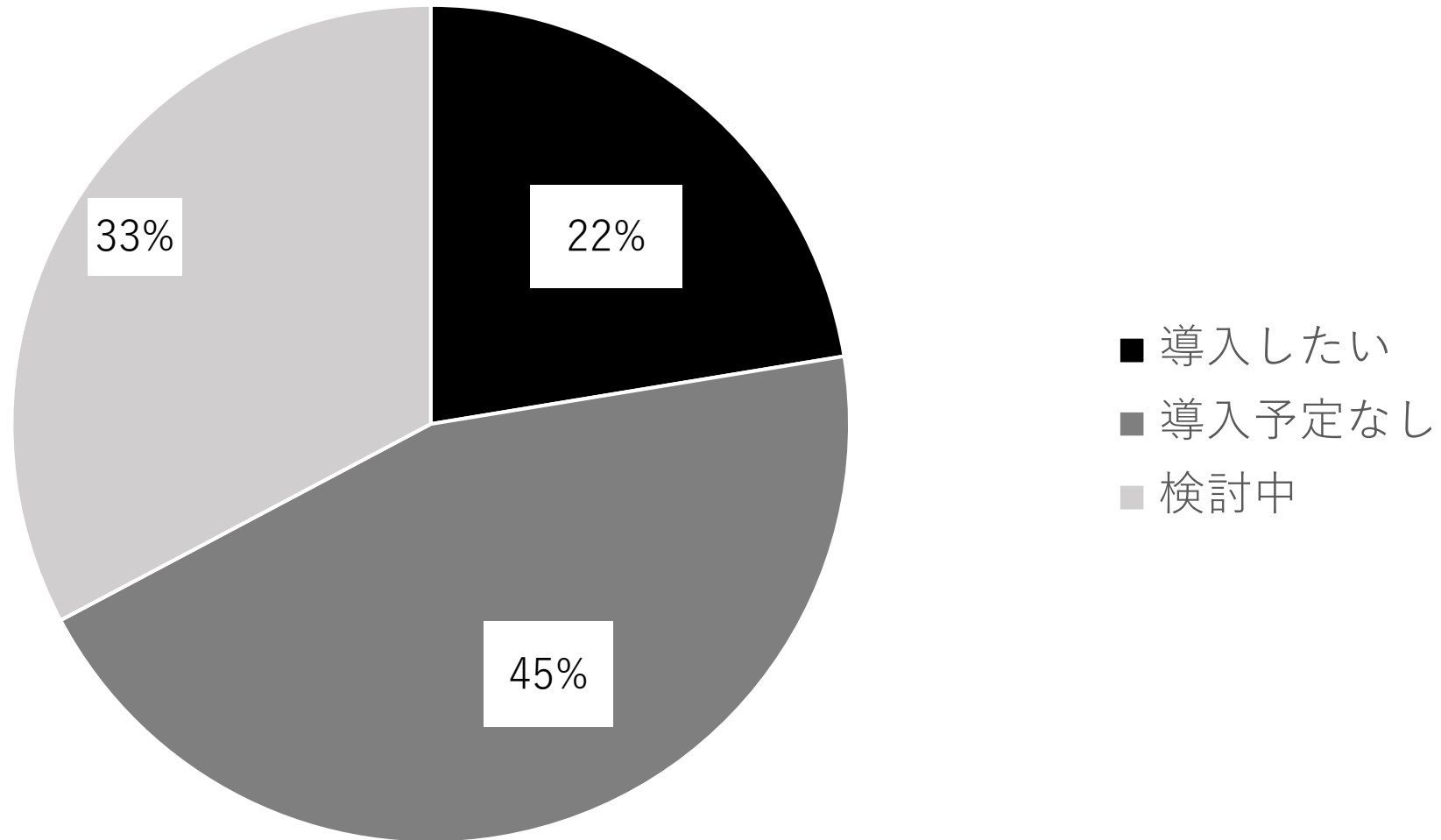


◆介護ロボット導入で感じた課題 (N=31)

※複数回答あり



◆介護ロボット未導入の事業所で、今後導入する意向の有無 (N=116)



介護ロボット導入時の教育について

- メーカーによる導入研修
- 事業所による安全研修
- 介護者、利用者に分かれた使用シミュレーション
- ユニット毎に異なる介護ロボットの導入
 - ⇒ それぞれのユニットにて主体的に考え、
やりがいを高める

**介護ロボットの開発・導入と
認知症ケア製品の開発に関する現状把握調査結果**

■調査目的

認知症の人の徘徊予防や早期発見、買い物・通院支援のためのシステムや取り組みなど、ロボット技術の開発や認知症ケア製品の開発について実態把握することを目的とします。

■調査方法および期間

方法：調査票を郵送配布、郵送にて返信

期間：2019年7月8日～7月31日

■調査対象者

介護ロボットの開発・導入に取り組んでいる企業

認知症ケア製品の開発に取り組んでいる企業

■アンケート結果

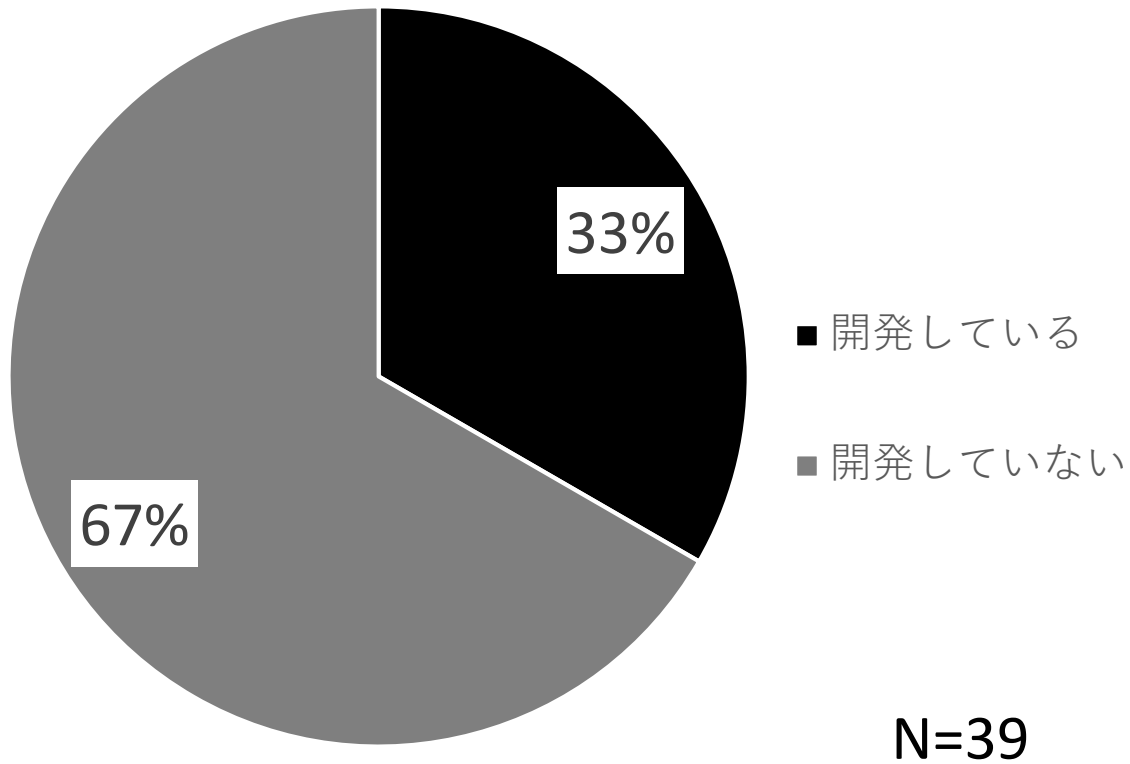
アンケート配布数：89

アンケート返信数：39

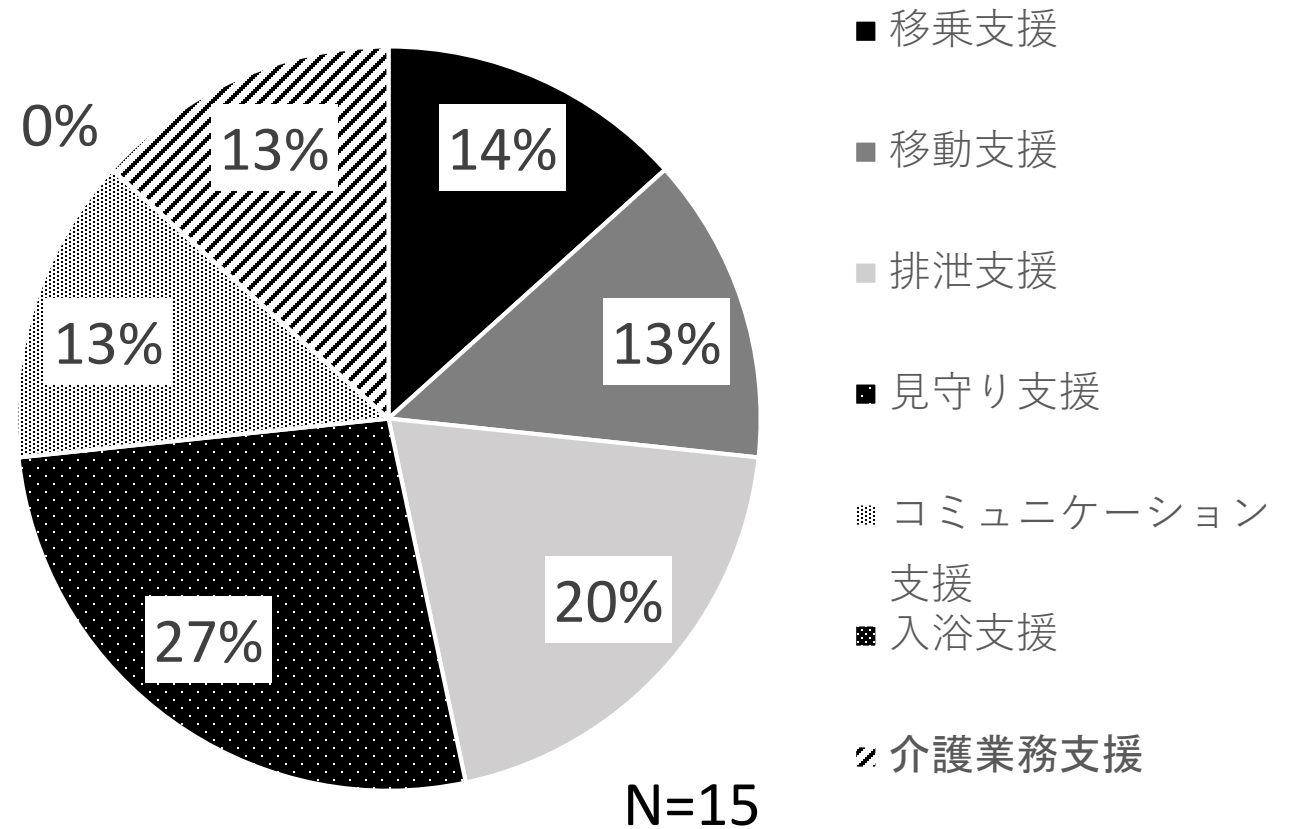
回収率：43.8%

◆介護支援ロボットの開発

開発の有無



開発分野 ※複数回答あり



◆介護支援ロボット導入の課題

- 商品自体の改良が必要
- 商品の認知度が低い（広報不足）
- 導入価格が高い
- 介護報酬等の算定と結びつくと利用しやすくなる

◆事故やトラブル、リスク回避

◆先端技術による事故やトラブル回避等の取組み

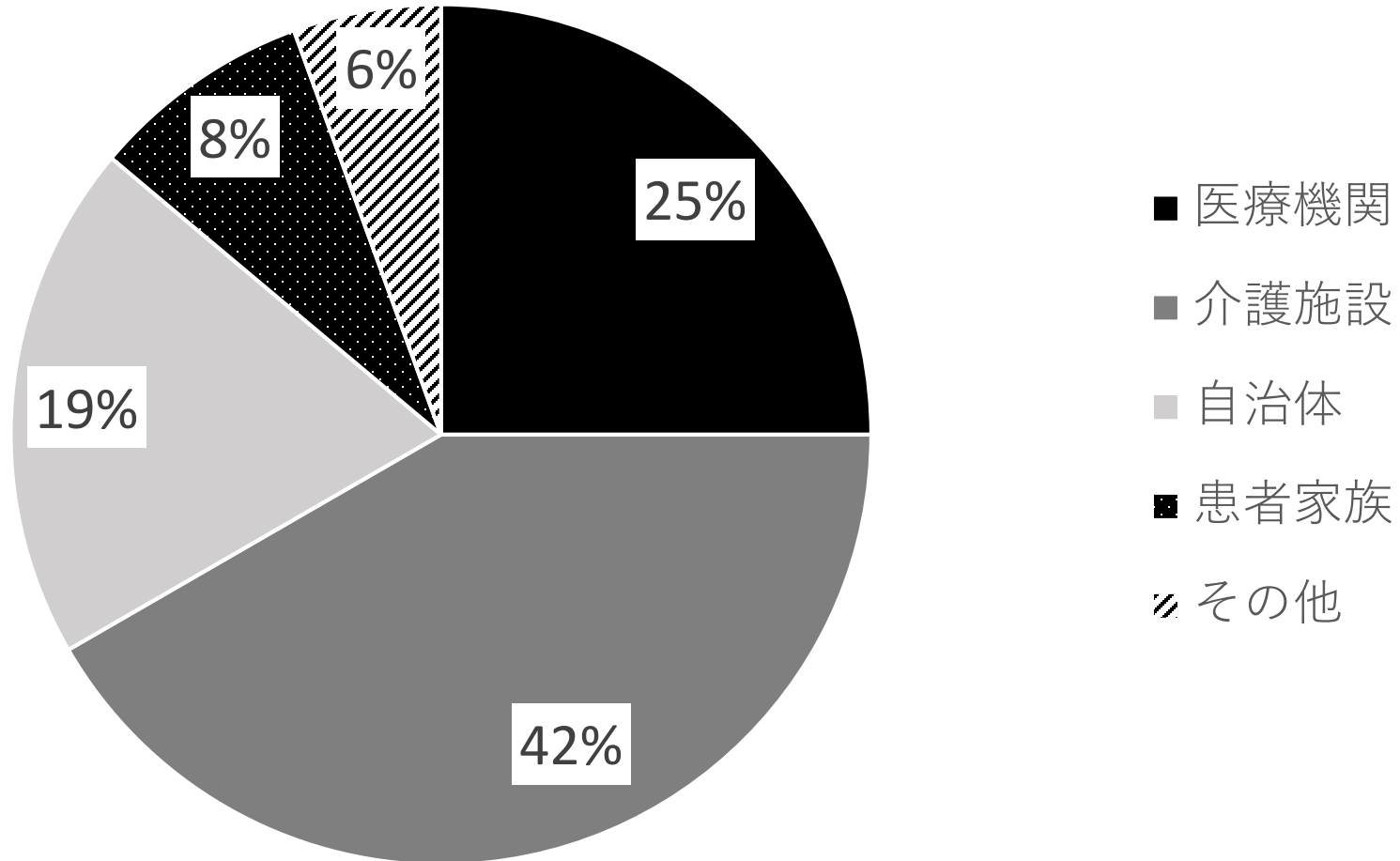
- ・ PL法の準拠
- ・ 生活支援ロボットの安全性に関する国際規格ISO13482に基づく認証取得

◆商品による事故やトラブルのリスク回避のための対応

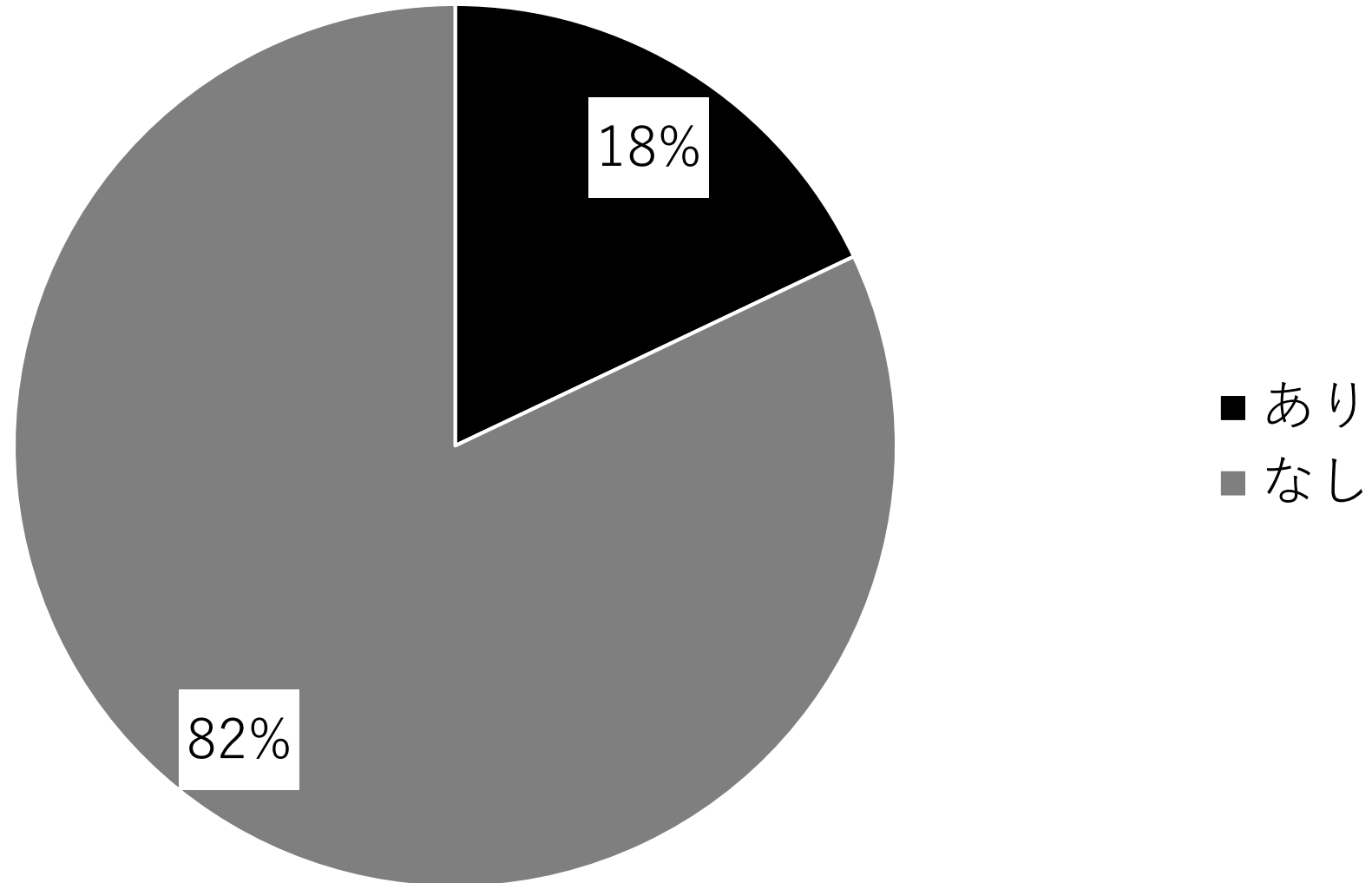
- ・ 使用方法についての研修会の実施
- ・ 商品導入時のレクチャー実施

◆商品の販売促進先（N=36）

※複数回答あり



◆認知症ケア製品の開発の有無 (N=39)



◆認知症ケア導入の課題 事故やトラブル、リスク回避

◆導入の課題

- ・商品の認知度が低い（広報不足）
- ・導入価格が高い

◆先端技術による事故やトラブル回避等の取組み

- ・PL法の準拠
- ・生活支援ロボットの安全性に関する国際規格ISO13482に基づく認証取得

◆商品による事故やトラブルのリスク回避のための対応

- ・利用モデルの具体化
- ・研修会の実施